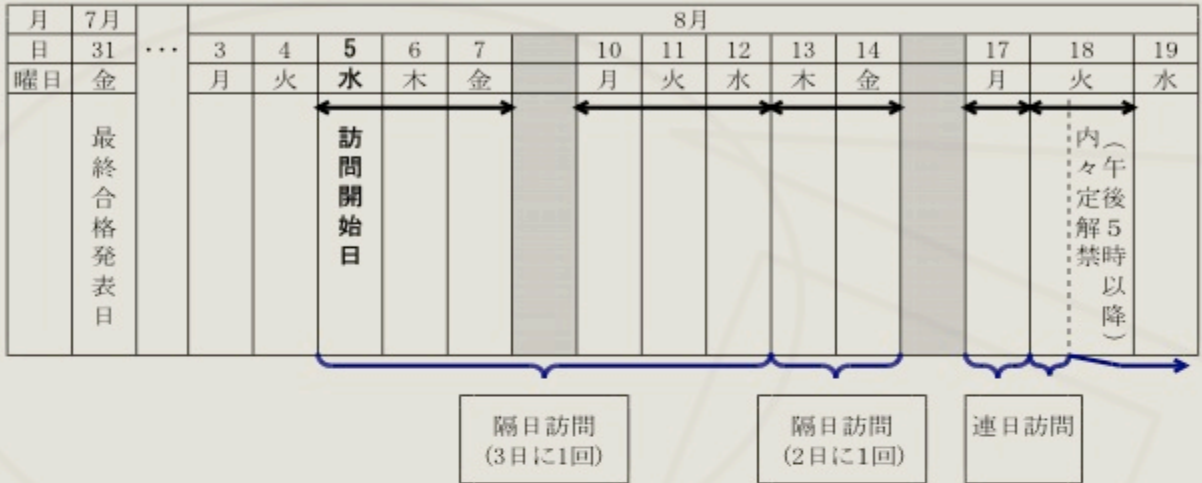


# 内定までの道のり



# ※官庁訪問について

## 平成27年度総合職春試験官庁訪問スケジュール



### 官庁訪問とは・・・？

官庁訪問とは、国家公務員総合職試験に合格した者が官庁に採用してもらうために実際に省庁に行って面接してもらうのです。

各訪問者は3つの省庁(例えば第1クール1日目に環境省、2日目に文科省、3日目に外務省)を回り、1日をかけて面接で評価されます。上の図でいえば8/5～7が第1クール、10～12が第2クール、13～14が第3クール・・・といった具合です。そして、それぞれのクールで1～3の省庁を回ります。

### 面接の形式

環境省の官庁訪問の面接には、主に人事面接と原課面接という2つの形式があります。(他省庁もほぼ同様。)

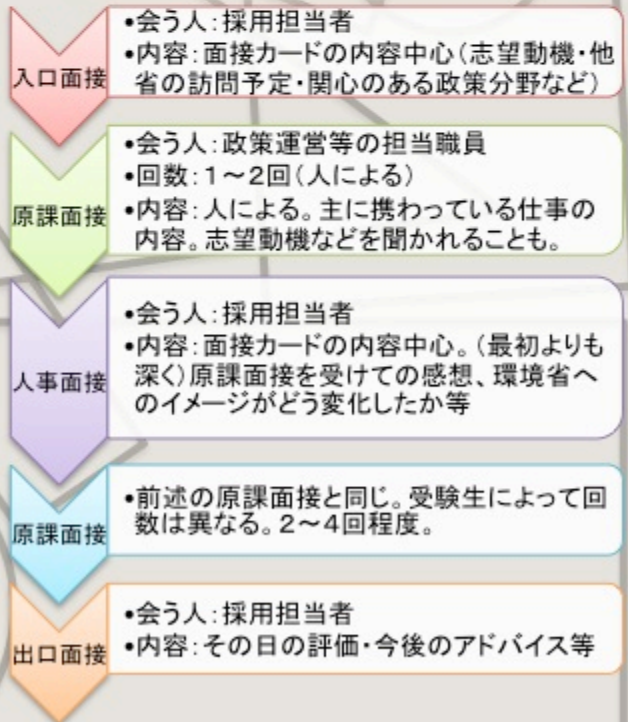
#### 【人事面接】

秘書課の職員と面接。志望動機や学生時代のこと等を聞かれます。一般的な面接のイメージに近いです。

#### 【原課面接】

実際に働いている職員の方からお話を聞き、省庁の業務に関する理解を深めることを目的とします。

### 官庁訪問一日の流れ



# I.T.くんの試験勉強

試験区分: 法律

席次: 250~300/377人

予備校: あり

## ●判例を覚えればほほいける

語弊があるかもしれませんが、公務員試験六法の判例を全て覚えることが出来れば、一次専門は突破できる気がします。もちろん基礎学習は必須ですが、直前模試で下から10番目だった僕が一次試験を合格できたのは判例を丸暗記出来ていたからだと思っています。丸暗記とか脳みそスポンジかよって思うかもしれませんが、繰り返し読みまくれば案外いけるもんです。

## ●教養はとれるところを確実に

高校でろくに勉強せず、大学受験もしていない僕にとって教養科目は地獄の難関でした。特に○○科学系はあまりにもコストが悪く感じたので、途中から思想しか復習していなかったです。その代わりに自信があった文章理解(英語)は全てとり、時事は完璧に、あとは数的処理でどれだけ稼げるかが最低限ボーダーをこえる条件だと考えて勉強していました。法律に近道はないですが、教養は各々の知識量に応じて効率良く勉強する必要があると思います。

8~10月

- ・外資コンサルを中心にインターン、面接
- ・環境省のサマトラにも参加

11月

- ・民間就活を通して、総合職受験を決意
- ・やるべきことの多さに圧倒され、教養の無さに涙する

12月

- ・憲・民・行のインプットを一通り終わらせる
- ・毎日1時間くらい数的処理をやるようになる

1月

- ・スタバ勉強をしすぎて、店員と友達になる
- ・2週間くらい教養のみを勉強する期間を作る

2月

- ・重要判例を何周もして覚えた気になる
- ・教養も全て2、3周して頭が良くなった気になる

3・4月

- ・直前模試の290位/300人という順位に自分ののびしろを大いに感じてニヤける...そして、少しだけ自信をなくす
- ・公務員六法の判例丸暗記、数的処理は20問/日くらい

5・6月

- ・一次試験後に二次対策を始める
- ・とりあえず模範論文をパソコンにタイプしてみるも、後々これが非常に無駄であったと悔いる

7月

- ・論点・定義を覚える方がよっぽど大事だと直前に気付く、とても焦る。でも頑張る。
- ・人事院面接は素の自分で楽しむことを意識

## 来年の受験生へメッセージ!!!

何よりも自分に自信を持つことが大切です。多くの受験生は一次の倍率はこれくらいだろう、官庁訪問では何人くらい来ているから倍率は...とか話していますが、ぶっちゃけ倍率とか本当に関係ないです。結局、自分自身がどれだけ良いパフォーマンスを出来るかが大事なんです。

それから、試験対策や官庁訪問に限らず「ブレない軸」を持つことが個人的には大切だと思っています。国家公務員として成し遂げたい夢があるのなら、しんどい勉強も乗り越えられます。今後激務であっても楽しみながら働く為にはブレない軸・夢がないときついんじゃないでしょうか。これを読んでくださった皆さんと霞ヶ関で一緒に働くのを楽しみにしています！それが環境省ならなお素敵ですね。

# I.T.君の官庁訪問！

## いざ官庁訪問！！

結果から言えば官庁訪問はとても楽しかったです。先輩、おっしゃる通りでしたさーせんっ！！

きっとどこでも繰り返し聞くことだとは思いますが、内々定をもらっている受験生は往々にして「楽しい」「官庁訪問中の成長」と口を揃えて言うと思います。なんじゃそりやて思うかもしれませんが、官庁訪問初日でどういうことかわかるので、常にこの2点は意識しておく必要があると思います。

それから官庁訪問を通して、訪問者と「省庁とのマッチング」をすごく見ているなあとも感じました。だからこそ、人気省庁だから！とかいった理由で訪問先を決めると辛いと思います。官庁訪問中も、もし働き始めることが出来たとしても。誰しもがなにかしら社会や日本に対してアツイ想いをもって国家公務員を志しているとは思いますが、常に「自分が人生をかけてやりたいことは何なのか」「それを達成するために適切な職場はどこなのか」を考え続けてください。それはもしかしたら中央官庁じゃないかもしれませんが、学生の内にそれに気付けることはもしかしたら幸せことなのかもしれません。

## 官庁訪問前

官庁訪問の情報てあまりに少なくて、特に環境省の官庁訪問の情報なんて皆無だったので、ひたすら不安でした笑

他省の先輩に聞いても「楽しめ！」としか言われず「なんだよそれええええ！！」ってなって、さながら迷える子羊でした。

まあしゃーないと、民間就活の時に作った自己分析的なワードをアップデートしながら読みこんだり、志望動機などから想定される質問を思いつく限り書き出してどう答えるかを考えていました。

結果的にこの準備が非常に効果的でした！

## 官庁訪問を終えて

正直実感がなさすぎてびっくりしてます(笑)一次試験の勉強をしているときからこの時を妄想して、どうリアクションをとってやろうかなんてニヤニヤしていた割に、いざ官庁訪問が終わると信じられないのかなんなのか…。きっとこれからじわじわ来るんでしょね、楽しみでまたニヤニヤしちゃいます。

働き始めたら学生時代よりもエンジョイするつもりではありますが、せっかく暇を持て余している残りの学生生活は最高に楽しみたいです！

# K. Y.さんの試験勉強

試験区分:行政

席次:200~253/253人

予備校:なし

●短時間で集中して・・・

私の場合、準備し始めるのが遅かったため、科目は点数配分の高い専門に絞って勉強しました。大学で民法、憲法、行政法、刑法は勉強していたので、「それを思い出す」のにプラスして、「試験特有の問題を覚える」、という感覚で勉強していました。研究室の活動やバイトもそのまま続けていたので、やれる時間はやる！と決めて、短い時間でも集中してやるのがポイントです。

●日ごろから「鵜呑み」にしない目線

学生団体やゼミ、研究室での活動でWS(ワークショップ)を頻繁にしていたのが、政策討論では活きたと思います。というのも、対策は本当に一切しませんでした。

WSをあまりしない環境にいる人でも、日ごろ目にするもの、聞くことに対し、鵜呑みにせず、「自分ならどう考えるか」を意識する事、出来ればそれを友達や先生と議論することが良いと思います。

4月

- 国家総合職を受験することを決断
- 書店で参考書を購入
- 福岡県の藤祭りを見に行く

5月

- 数的を少しして、後は専門ばかり
- ミズベリングでスタッフ
- 試験は緊張しながら頑張る

6月

- 合格発表後、急いで論述対策。また書店で参考書を購入。
- 土木計画学会(春大会)で論文発表

7月

- 二次試験、大学の先生に1度だけ面接練習してもらい、その後は気合いで乗り切る。
- 天草で高校生とイベント。花火大会見る。

8月

- 合格発表後、省庁について自分なりに勉強
- 急いで宿泊場所や飛行機の手配
- 官庁訪問！

## 来年の受験生へメッセージ！！

ここまで偉そうな事を書きましたが、席次からわかる通り、成績は決して良かったとは言えません。それでも、受験すると決心してから短い時間でここまで進めたのは、日ごろの大学での勉強、ゼミや先生との議論、先輩・後輩との議論、親や祖父母との会話、バイト先でのコミュニケーションなど、自分なりに「日常」を丁寧にやってきたことが影響したからだと思います。「受験のための勉強」ではない勉強や行動が、実は大きな力になると思います。日頃から自分は「何を学んでいるのか」、「何をしたいのか」、を考え続け、選択していくことが、自分を作り、いずれは良い道につながると思います。

進路で迷ってなかなか絞り切れない、踏み切れない人もいます。そんな人でも、今までの日常を今までよりも丁寧にかつ熱心に過ごせば、「国家公務員として働きたい！」と思った時に力になると思います。頑張ってください！

# K.Y.さんの官庁訪問！

## 官庁訪問前

### いざ官庁訪問！！

官庁訪問ですが、まず、私は地方の大学にいたため、前日から東京に入りました。荷物の移動も大変ですし、移動の日はチェックインまで部屋でゆっくりできないので、出来るだけ同じホテルに宿泊することをお勧めします。官庁訪問は長期戦なので、自分が身体的・精神的に回復できる環境を作りましょう。

次に官庁訪問自体についてですが、私は色々な事情から説明会にも行けていなかったもので、本当に緊張しました。こんな私が訪問していいものなのか、みたいにも思っていました。しかし、官庁訪問の面白いところが、周りのみんなが友達として助け合うようになるところです。情報の交換、励ましあい、とても心強く思いました。そんな中で、心境が変わったきっかけが環境省の方に言われた言葉で、「中を見たり、直接話を聞ける機会なんてめったにないし、楽しんで！」というものでした。そこからは「勉強させてもらおう！」という気持ちで面接の方のお話を聞くようになりました。そうすると、自ずと結果につながったのかな？とも思ったり(笑)

文系から理系へ移ったという特殊な経歴、現在は理系にいるのに事務系で受けている現状、予備校に行っていないなどの状況から、官庁訪問についての情報がネット上のものしかなかったため非常に不安でした。不安で仕方なかったので、とりあえず志望省庁の資料を集めて勉強するようにしていました(笑)

志望省庁を決める際も悩みましたが、ネット情報ではなく、現役の方など数少ない知り合いからお話しをお聞きし、その上で、「自分がどのポジションで何がしたいのか」を大切に決めてました。

## 官庁訪問を終えて

私は院生なので、官庁訪問を終えてからは、1・2日休憩した後修論に取りかかりました(笑)。官庁訪問を終えてもあまり実感がわかず、周りの人・お世話になった方に報告していく中でじわじわと実感していました。

官庁訪問について、ネットで流れている情報を見ると、今後、官庁訪問をしようと思っている人は不安に感じると思います。しかし、それで萎縮してしまい、自分の素の「良い部分」を見せられなくなると本当にもったいないです。むしろ、「色々な事を教えてもらおう」という謙虚かつ素直な気持ちで臨むことが良いのだと思います。良くも悪くも、官庁訪問ではその省庁の良い点、悪い点が見えてきます。そうした点を考慮した上で、自分の気持ちに嘘をつかず、素の自分に合う省庁を、もっと広く言えば職業を選んでほしいと思います。でないと仕事を始めてもしんどいと思うので。程よい緊張感と、素直な気持ちで、後悔のないように自分の全力を出し切って頑張ってください。お会いできるのを楽しみにしています。

# S.T.くんの試験勉強

試験区分: 経済

席次: 50~100/187人

予備校: なし

## ●1次は苦手をつぶす！

科目数が多い1次試験では、少数の得意科目を完璧にすることよりも、大コケをしそうな科目をゼロにすることが時間的にも勉強量的にもコスパがいいと思います。具体的な方法として、僕は、過去問(十苦手科目なら基本的な問題集)をひたすら解いていました。加えて、間違えた問題や忘れがちなポイントだけをピックアップしたノート作ればそれで事足りると思います。65%から75%を安定してとれるようになるまでこのプロセスを繰り返しました。

## ●2次も独学で対策可能！

経済区分では市販の過去問で模範解答を完備しているものはありません。こうなると予備校勢が有利になりそうですが、独学でも十分対策が可能だと思います。具体的に、僕は「1次試験対策で学んだ知識を書けるようにすること」と、「試験委員の先生の著書を読むこと」の2点にポイントを絞って、1次試験後の1ヶ月間集中して勉強しました。特に、試験委員の先生の本文を読むのは試験対策の面だけでなく、経済学の観点を身につける上で非常にオススメです。

11月あたり

- 自分の大学で環境省の出張授業が開かれて、触発される。
- しかし、バイト漬けの日々で勉強は始められず。

2月

- 再び思い立って、環境省の説明会に初めて足を運ぶ。
- 卒論の完成とバイトに全力を注ぐ。

3月

- 経済(ミクロ/マクロ)と数的処理・判断推理の勉強を始める。
- 卒業式などのイベントが多く、勉強のペースが乱れる。

4月

- 残りの専門科目(財政学/経営学など)に手をつける
- 数的処理・判断推理の苦手分野を解き直す。
- 「隠れ重要科目」である時事問題を市販の本でマスターする。

5月

- 専門科目の知識系のもの(経済事情や経済史など)や教養試験の暗記系のもを試験前日まで詰め込み続ける。
- 本番は6割5分程度で、目標の最低ラインで、まずまずだった。

6月

- ミクロマクロの基本的な論点を市販の本を参考にまとめた。
- 試験委員の先生の本文を片っ端から読み漁った。

7月

- 面接対策は市販の本を参考に6月中から草案を練っておいた。
- 友人等に模擬面接をしてもらった。

8月

- 官庁訪問！農水→環境とまわる。
- 適度な緊張を保ちつつ、真摯に自然体で話を聞くことが重要。

## 来年の受験生へメッセージ！！

試験対策には、月並みですが、「自分の現状を冷静にみつめること」と「目標を見失わないために過去問をベースに勉強すること」に尽きると思います。たしかに、僕は4ヶ月くらいというどちらかといえば短期間に集中して試験勉強をしました。ただし、それは過去問と自分の現状を照らし合わせて、根拠のない自信とは無関係に、冷静に作戦を練ったからできたことだと思います。具体的には、大学受験の名残で知識系の科目の記憶が残っていたことや、大学4年間の経済の授業で一通り勉強してきた(大学でのミクロ経済系の授業は課題が多く「大人の計算ドリル」と言われていました…)ので、短い期間で集中して思い出せば事足りると思っていたことなどがあります。受験生の皆さんも、周りの声に惑わされず、自分の現状と試験の目標をきちんと整理して、各々にあった勉強の計画を立ててみてください。

# S.T.君の官庁訪問！

## 官庁訪問前

官庁訪問は、試験対策と違ってなかなか自分だけでは対策がしづらい印象がありました。そこで、2つの方法を試しました。1つ目は、予備校に通っている情報をもっている友人にいろいろなエピソードを教えてもらいました。独学している受験生にとって、有益な情報ばかりをいただき、非常に助かりました。2つ目は、試験の面接対策で行った志望動機や自己PRを、志望する省庁別に合わせて、練りなおしていました。具体的には、説明会でもらった資料やその省庁のHPなどを参考にしていました。

## いざ官庁訪問！！

いざ、官庁訪問が始まると、毎日自分の状況がめまぐるしく変わっていく2週間を経験することになり、正直、官庁訪問当時はただその流れに身を任せているだけでした。ただ今振り返ってみると、「官庁訪問で自分の考えをブラッシュアップしていく」ことがポイントであったと思います。当然ですが、知識の面でも、人生経験の面でも、職員の方々を上回ることなど到底できません。そのため、予め準備してきた志望動機などは自分で完全と思っていたも、ポロポロと穴が見つかることが多いです。そこで、官庁訪問で面接を繰り返す中で得た事を、自分の動機や問題意識などに真摯に反映させ、官庁訪問期間中で自分を変化させていくことができれば、どこかでそれをきちんと見てくださる方がいると思います。環境省の待合室は、落ち着いた雰囲気でリラックスできるので、その場で自分のベストなコンディションを保ちつつ、冷静に自分を見つめ直すことができれば、問題なしです。

## 官庁訪問を終えて

官庁訪問が終わり、内々定をいただいております。お世話になって方々に報告させていただいたときに、ある方から「君ね、そんな面接でうまくいくなんで『運』と『タイミング』が全てだよ」と言われ、妙に納得した記憶があります。こういう準備や対策の仕様がなないように聞こえますが、「人事を尽くして天命を待つ」という有名な言葉にもあるように、試験対策にしても官庁訪問にしても、現状で自分のできることをし尽くしつつ、あとは、官庁訪問で起こって行く事に対して流れに身をまかせるしかないかなあと感じます。これを読んでいただいている皆様にも、環境省の官庁訪問だけでなく、なにかタイミングのよい出会いに恵まれるよう願っています。



# T.H.くんの試験勉強

試験区分: 教養

席次: 60~90/123人

予備校: なし

## ●一次は絞って対策!

教養区分は専門科目がない分、一次試験で幅広い分野からの教養問題が出題されます。すべての範囲を網羅的にやったのでは間に合わないと思った私は、高校で未履修の物理・化学を思い切って捨て、世界史など既習分野の復習と数的処理の対策に時間を充てました。結果的にはこの勉強法が奏功したと思います。

## ●「公共政策」のイメージを持つ

教養二次ではグループ討議・政策立案などを行うのですが、予備校に通っていない場合は論文添削や模擬面接などをしてもらうことができませんでした。対策としては、市販の公共政策に関する参考書を買って国家公務員としての仕事のイメージを持つようにはしていたのですが、結果的にはそれが生きたのだと思っています。あとはそうですね・・・授業でプレゼンを多く行っていたのもありますかね。当日はかなり緊張するので人前で話すのには慣れておいた方が良いでしょう。

7月

- 教養区分の受験を決意。
- 教養問題の参考書を購入する

8月

- 数的処理・推理判断を中心に問題演習
- 九州に旅行に行く。明太子がおいしかった。

9月

- 教養区分試験。マークは65%ほど取れた。
- 論文試験対策はほとんどしなかった。

10月

- 時事と公共政策の参考書購入。
- 熟読はしたが実際に書いてみることはなかった。

11月

- 教養区分試験。手応えまあまあ。
- 直前に勉強した公共政策の知識が生きた。

12月

- 合格発表。気がついたら受かっていた。
- とりあえず浮かれてこの月は何もせず。

1~7月

- 各省庁の説明会に参加。
- 環境省以外には文科・厚労・農水など。

8月

- 官庁訪問!!! 文科→環境→財務と回る。

## 来年の受験生へメッセージ!!!

正直試験勉強という試験勉強をあまりしてこなかったのも・・・あまり参考にならないかもしれません。ただ一つだけ言いたいのは、国家総合職を志望しているのであればとりあえず教養区分を受けてみてほしいということです。試験の雰囲気や味を味わえますし、二次に進めば貴重な面接の機会ももらえます。そして何より無料です(笑)私は特に二次対策で公共政策の参考書を熟読したことで、自分が国家公務員として何ができるのかということが具体的にイメージできるようになりました。面接時でも自分が自信を持って発表した政策に対し、財源や評価の部分をつっ込まれ自分の考え方の甘さを痛感しました。試験勉強も試験そのものも私たちの成長の糧になってくれるはずです。そういう意識で頑張ってみてください。

# T.H.君の官庁訪問！

## いざ官庁訪問！！

さて、そんなこんなで不安いっぱいのままスタートした官庁訪問でしたが…一言でいうなら楽しかったです。特に環境省の官庁訪問では、もともと環境行政に関して全くの無知だったこともあり、いろいろな人と話すたびにたくさんのことを学ぶことができ非常に刺激的でした。環境省に入ることを決めたのもこの官庁訪問中の楽しさが決め手でした。

2週間の官庁訪問で気をつけていたことが二つあります。1つ目は「官庁訪問中に成長する」そのために、多少疲れていても面接の内容は待ち時間でまとめ直したり、面接中も何か新しい発見をしてやろうという気持ちで臨み続けました。2つ目は「常に笑顔でいる」待合室では積極的に話しかけ、冗談を言ったりして盛り上げていました。盛り上がりすぎて注意されたこともありましたが…官庁訪問においては一回一回の面接が重要になってくるのはいうまでもないのですが、待合室でどう過ごすのかも重要になってくると思います。いろいろな人から話を聞いてイメージを具体化してみてください。

## 官庁訪問前

…とりあえず不安でした(笑)予備校にも通っていないし周りに受ける友達もいなかったなので情報もなく…。まあ今思うとしょうもないことで悩んでました。

対策としては今までの説明会で学んだことをまとめたり、面接のシミュレーションをしたり、あとは民間の就活もしていたので、それが面接対策にもなったかもしれません。とにかく困った時は「自分は何がしたいのか」「自分とは一体何者なのか」という原点の部分に立ち返るようにしていました。サークルに顔を出して不安をまぎらわせたりもしました。

## 官庁訪問を終えて

官庁訪問が終わって一週間が経ち、今こうやって振り返っているわけですが、何というか不思議な気持ちでいっぱいです。環境省で働くことになるとは思ってもみなかった…。縁なんだろうなあとしみじみ感じております。そんな僕からみなさんに伝えたいこととしては、官庁訪問をぜひ楽しみにしてほしいということです。官庁訪問が近づくにつれて不安な気持ちはどんどん膨れ上がってくると思います。確かに官庁訪問は選考活動の最終段階ですが、それと同時にみなさんが就職先を選ぶ機会であり、実際に活躍されている方々の話をたくさん聞ける貴重な機会でもあります。自分自身のことを真剣に考えることで今まで知らなかった自分に出会える機会でもあります。不安に思っているのも得るものではありません。官庁訪問でみなさんと出逢う日が来ることを楽しみにしています。

# Y.H.さんの試験勉強

試験区分:院卒行政  
席次:100~150位/253  
人  
予備校:なし

## ●一次試験は自分の得意分野で稼ぐ

私が一次試験を突破できたのは、中学受験・大学受験のわずかな貯金で多少教養が解けたこと、司法試験に向けて勉強していた法律の分野で点がある程度稼げたからだと思います。一次試験は幅広い分野から問題が出されるので、むやみにすべての分野に手を出すのではなく、自分の得意な分野に力を入れて勉強し、そこで得点を稼ぐことが得策だと思います。

## ●政策課題討議は練習あるのみ！

院卒区分は二次試験で政策課題討議があります。私は、学校の開催する模擬政策課題討議セミナーに3~4回ほど参加し練習しました。人前で緊張しやすいため、最初は上手く発言することができませんでした。しかし徐々に慣れ、レジュメ作成やプレゼン、時間配分や発言のタイミングのコツなどを掴んでいきました。また政策課題討議は、協調性や気配りなどの面もチェックされると聞きます。グループ内であまり発言をしていない人に話題を振る、他の人が話しているときはしっかりと相槌を打つこと等にも気を付けました。加えて、討議は自分の作ったレジュメのコピーをメンバーに配布して行われます。そのためレジュメは、第三者が内容をすぐに理解できる簡潔なものを目指すことをお勧めします。右記は私が使ったレジュメのフォーマットです。よければ参考にしてください。

2014年  
7月

●環境省を受けることを考え始める。

2015年  
3~4月

●法科大学院を無事卒業。  
●国家総合職の対策を念頭に司法試験の勉強に邁進。

5月

●司法試験を受ける。  
●司法試験の一週間後に国総の一次試験を受ける。集中力を維持するのが大変だった。

6月

●まさかの一次合格。  
●焦って二次試験の政策課題討議の対策に精を出す。

7月

●二次試験を受ける。  
●環境省、法務省・原子力規制庁・農水省などの説明会に出席。

8月

●官庁訪問。環境省→法務省(民事局)と回る。人生でほぼ初めての「面接」という作業に終始緊張し、胃を壊す。

1 結論: ~すべきである(ない)。  
2 理由  
(1) \* \* \* \* \*  
(2) \* \* \* \* \*  
3 考えられる反論・不都合性  
(1) \* \* \* \* \*  
(2) \* \* \* \* \*  
4 対応策  
\* \* \* \* \*  
5 課題・討議したいこと  
\* \* \* \* \*

~アドバイス~  
・財政面にも配慮する。  
・自分の主張する対応策をとることで生じうる課題をプレゼン段階で提示しておく。のちの討議がスムーズに進むことが多かった(気がする)。

## 来年の受験生へメッセージ!!!

来年の受験を考えてる皆さんは何かしら不安を感じていると思います。しかし、不安に思っているのは自分だけではないはずです。今自分の出来ることにフォーカスして全力で取り組みれば必ず道は開けると思います。自分を信じて諦めずに頑張ってください。応援しています！

# Y.H. さんの官庁訪問！

## 官庁訪問前

### いざ官庁訪問！！

民間の就活を全くしておらず面接に慣れていなかったこと、予備校に通っておらず情報源に乏しかったことから、とにかく不安で仕方ありませんでした。しかし、いざ始めてみると、環境省職員の方達が実際に携わっている政策のお話を沢山聞くことができ、とても楽しく勉強することができました。官庁訪問中、私は以下の3点のことに気をつけていました。

#### ① 自分が行政官だったらどうするか、という視点を持つ

ただ漫然と職員の方のお話を聞いていても、それでは自分がどのような人間なのか(自分と働きたいと思ってもらえるか)をアピールすることはできません。常に能動的に話を聞くことを心がけ、行政官になったつもりで考えて質問をするよう心がけました。

#### ② 職員の方から聞いた話をノートにまとめる

環境省は、官庁訪問中に受験生がどれだけ成長できるかをよく見ているように感じました。そこで、職員の方から聞いたこと、そこから何を学び自分の考えにどう影響を及ぼしたかを端的に答えられるように準備しました。

#### ③ 控え室ではリラックスする

官庁訪問は時に夜遅くまでかかることがあり体力勝負の面が大きいです。そこで、控え室ではなるべくリラックスするよう心がけ、次の面接に備えてあまり頭を疲れさせないように気をつけました。

#### ① 説明会に出席する

私は説明会に行き始めたのがとても遅かったため、とにかく直前まで各省庁の説明会にできるだけ出席し、ホットピックの政策の収集や、省庁の雰囲気の把握に努めました。その結果、環境省の政策内容はもちろん、職員の方々の雰囲気にもとても惹かれ、ここに入りたい！と決意を新たにすることができました。

#### ② 自己分析をする

なぜ自分は環境省に入りたいのか(原体験は何か?)、自分のやりたいことがなぜ環境行政でないといけないのか、といったことを突き詰めて考え直しました。一見当たり前のことかもしれませんが、こういった自分の軸を明確にしておかないと、環境省に対する熱意もぼやけてしまい、それは必ず職員の方にも伝わると思います。

## 官庁訪問を終えて

どの職員の方の話も大変興味深く、環境省が関わる政策の広さを改めて認識するとともに、自分が環境省に入省したら携わってみたい新たな分野の発見をすることもでき、とても楽しかったです。職員の方は忙しい業務の合間を縫って対応して下さいます。お互いに有意義な時間になるよう、もちろん緊張はするかもしれませんが、いつもの自分が出せるように頑張ってください！

# Y.R.さんの試験勉強

**試験区分: 法律**

**席次: 1-50/377人**

**予備校: あり**

●一次は法律科目と数的処理に集中！

試験は教養試験と専門試験に分かれています。教養試験に関しては科目数が多いけれど、全部を網羅しようとするとう率が悪いので、地理・歴史など1問しかない科目は優先順位を下げ、数的処理や時事問題など配点の大きい科目に絞って勉強したほうがいいと思います。

また、専門試験は教養試験に比べて配点が高いので、特に憲民行政は過去問などを何周もして、苦手な部分をなくしていくのが重要だと思います。

●筆記試験は友人と勉強するのも一つの手

筆記試験対策はひたすら過去問や模試を繰り返し解くことだったのですが、その際に友人と一緒に解き、それぞれがどういう論点を書いたかについて議論をしたり、わからないところを説明し合ったりすることで、独りで勉強し答えを見直す場合よりも、何倍も理解が深まりました。自分に合った勉強方法は人それぞれだとは思いますが、筆記試験に関しては、他人との議論がいい勉強方法の一つかなと思います。

3月

- 国家公務員試験を受験することを決断し、予備校に入る。
- やる気に満ち溢れていたため、1か月で民法を1周する。

4月

- 大学3年で卒業に必要な単位を取り終わっていたため、ひたすら公務員試験の勉強の毎日。

10月

- 秋になるとだんだんと試験に対するモチベーションが下がり、勉強時間が減っていく。
- 友人の勉強の進捗状況を知り、焦って勉強を再開。

3月

- 民間の説明会がスタート
- 勉強に忙しく説明会に参加できず、民間も公務員も中途半端で不安になる。

5月

- 1次試験の範囲の広さに、直前になっても準備万端とは言えず不安になる。
- いよいよ1次試験！手ごたえが悪く泣きそうになる。

6月

- 1次試験になんとか合格！
- 筆記試験に向け、友人と朝から晩まで過去問を解きまくる。

7月

- 試験に合格してないと思っていたので、あきらめモードで民間就職に専念し始める。
- まさかの合格に驚きつつ、焦って官庁訪問対策をし始める。

8月

- 1日から民間の面接を受け、無事内々定を貰って一安心！
- 官庁訪問が始まり、環境省→文科省の順に回り始める。

## 来年の受験生へメッセージ！！！！

「自分のペースを大事にし、どんなことも楽しむこと◎」

試験勉強に関しては、周りの人たちが気になったり、他の人の勉強の進み具合に焦ったりすることもあると思うのですが、自分のペースで勉強することが一番ストレスが少なく続けられる勉強方法なのかなと思います。そして何より大事なのが、試験勉強は辛いことの方が多いかもしれないけれど、友人と勉強したり、面白い判例を見つけたり、勉強の中にも楽しさを見つけることだと思うので、前向きに、楽しく勉強する方法を自分なりに見つけてみてください！

# Y.R.さんの官庁訪問！

## 官庁訪問前

### いざ官庁訪問！！

官庁訪問対策を十分にできていたとは言えなかったのが不安が大きかったのですが、いざ始めてみると、とにかく楽しかったです！待合室で出会った人たちと仲良くなったり、優しい職員の方々からじっくりお話を聞き色んなことを学ぶことができたりと、貴重な機会であったし、とても新鮮な2週間でした。

官庁訪問中の過ごし方としては、面接の合間には、待合室で面接で学んだことをひたすらノートにまとめたり、お話の中で一番興味深いと思ったことについてさらに調べてみたりしました。また、土日の休みの日には、週末明けに聞きたい分野について調べることもしつつ、ストレス発散のために遊びに出かけたりもしました。

官庁訪問前に対策をすることも大切だけれど、官庁訪問中に職員の方のお話からたくさん吸収して学んだり、その中で興味を持ったことについて自主的に調べたりするなど、官庁訪問中にいかに自分を成長させられるかが大切なのかなと感じました。

民間とも併願していたので、正直なところ官庁訪問前は民間の説明会や面接に時間を割くことが多かったです。ただ、民間の企業で何回も面接を受けたので、自己分析や面接練習ができていたのが官庁訪問で結果的に役に立ったと思いました。

また、官庁訪問対策としては、環境省のパンフレットを読み込んで、特に興味のある分野や気になったキーワードなどをインターネットで調べたり、その分野について環境白書を読んだりしました。

## 官庁訪問を終えて

官庁訪問での経験を振り返ってみると、大切だなと感じたことが2つあります。

1つ目は「知的好奇心を持つこと」です。勿論環境問題などに関してもあらかじめ知識を持っていることに越したことは無いのですが、知識を多く持っているかよりも、職員の方のお話に対して以下に興味を持って話を広げられるかが大切だなと感じました。どんな分野についても、「面白いな！」と調べていろいろ質問することで、職員の方々といろんな議論が出来ましたし、官庁訪問中に環境問題についてたくさん学ぶことができました。

2つ目は「楽しむこと」です。官庁訪問は緊張するし、あとからこんな質問するべきだったなと悔やむこともあると思います。ですが、楽しもうとする気持ちがあったからこそ、緊張をほぐすこともできたと、2週間を前向きに乗り切ることができたのかなと思います。

官庁訪問に対して不安や怖い気持ちを持っている人も多いと思うのですが、職員の方々からいろんな話を聞けるいい機会だと思って、楽しみにする気持ちを持って臨んでみてください◎